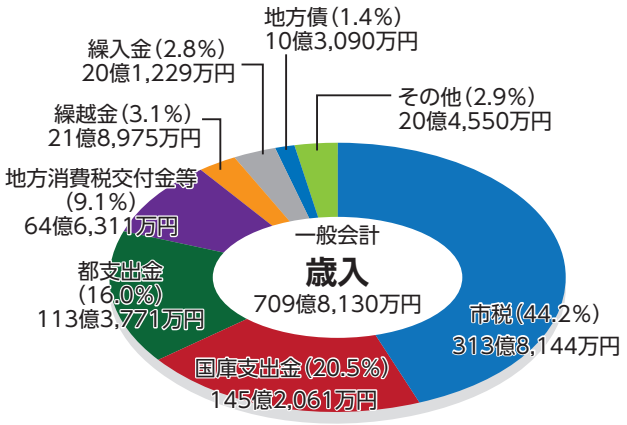
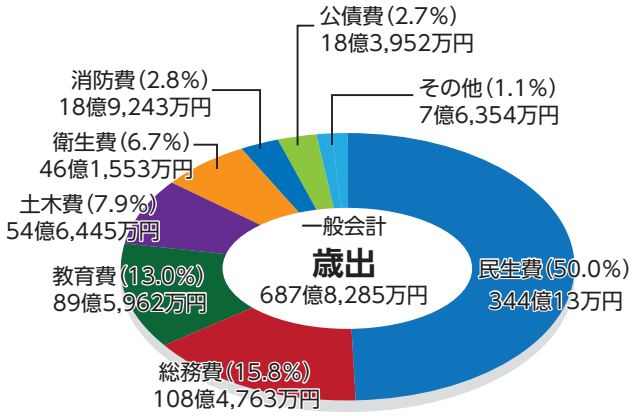
令和7年度決算を認定

令和７年度に多摩市がお金を使った結果（決算）について、議長を除く全議員で構成する予算決算特別委員会において審査し、本会議で認定しました。

令和７年度一般会計決算　款別構成グラフ

「教育」「消防」など使う目的ごとの分け方を款別といいます。





令和７年度　各会計別決算額

会計名		歳入	歳出	差引額
一般会計		709億8,130万円	687億8,285万円	21億9,845万円
特別会計	国民健康保険	144億2,074万円	143億1,737万円	1億337万円
	介護保険	135億2,435万円	130億9,874万円	4億2,561万円
	後期高齢者医療	54億9,520万円	54億5,252万円	4,268万円
合計		1,044億2,159万円	1,016億5,148万円	27億7,011万円

区分		決算額	
下水道事業会計	収益的収支	収入	34億7,545万円
		支出	29億4,156万円
	資本的収支	収入	3,070万円
		支出	4億200万円

※各会計で千円単位を四捨五入し、端数調整しています。

決算審査　こんなことが話題になりました

①平和を「学ぶ」から「伝え、つなぐ」取組みへ

総務費　平和啓発事業

戦後80年を迎え、子ども被爆地派遣事業の13年間の成果や、歴代派遣員・平和ユースの活動、平和展の運営・担い手不足について確認しました。また、学校・大学・地域が連携し、子どもたちが紙芝居などを通して平和を伝える機会の拡充や、派遣経験者が地域で学びを発信する取組みを提案し、平和を学び、伝える人の輪を市内全域へ広げ、次の世代へつなぐ仕組みづくりを進めるよう求めました。

②パルテノン多摩の賑わい創出について

総務費　多摩市立複合文化施設等管理運営事業

改修後数年間の大ホール集客について、指摘がありました。共催・提携事業に関しては1,154席がほぼ満席になっているものの、自主事業に関しては空席率が例年50%超え、令和7年度に関しては70%を超えているものもあります。この点について市からはパルテノン多摩の特色を出すという部分で効果があったが、改修前からの課題であった賑わいの創出という部分では今も課題を抱えている認識であるとの答弁がありました。

③国と東京都の制度をMIXした「こども誰でも通園事業」

民生費　多様な他者との関わりの機会の創出事業

多摩市では国の「こども誰でも通園制度」の本格実施にあたり、東京都が進める本事業と組み合わせて利用時間を拡大しました。複数の委員から利用状況や反響、今後の展望等について質疑がありました。前例のない試みで予算額の見極めが難しかったこと、幼稚園が対象外の年齢の児童を受け入れる利点と課題、未実施地域への今後の対応等について、質疑と指摘が相次ぎました。

④道路や公園の老朽化対策と管理体制について

土木費　道路維持事業

道路・公園の老朽化や樹木の倒木リスク、財政・人員不足を踏まえ、包括的民間委託による効率的な維持管理と安全確保について質疑があり、市は樹木診断や点検能力の向上を進め、令和10年４月からの委託を検討しているという答弁がありました。また、バリアフリー対策については、安全を最優先に点字ブロックや滑りやすいタイルへの対策を進め、来年度の予算の確保に努めると答弁がありました。

⑤激甚（げきじん）化する豪雨に備え車両避難対策を

消防費　災害対策経費

豪雨による浸水時の車両避難について、早急に車を避難できる仕組みが整っているか、避難場所の駐車スペースは足りているのかといった質疑がありました。市は現在４ヶ所の車両避難場所を設け避難指示発令時に開設していること、またその際の駐車料金は無料であると答弁し、今後水害に対する対策についてしっかり検討していくと答弁がありました。

⑥学校体育館のトイレを洋式化・バリアフリー化に

教育費　小学校・中学校施設整備事業

洋式化100%の学校がある一方、小学校４校、中学校２校の体育館トイレはすべて和式で、改修予定も未定です。体育館は子どもたちが学ぶ場であるとともに、災害時には地域住民を守る避難所にもなります。誰もが安心して利用できるよう、計画的な整備を求める質疑に対し、和式に慣れていない子どもが増えていることを承知しつつ、限られた財源の中で優先順位をつけて整備を進めていると答弁がありました。